

ブドウ「ルビーロマン」における アブシシン酸液剤による着色向上効果

1 背景・目的

ブドウ「ルビーロマン」は、着色期の高温による着色不足が商品化率低下の大きな要因となっている(写真)。そこで、他品種において着色促進効果が認められているアブシシン酸液剤の果房散布が「ルビーロマン」の着色に及ぼす影響について検討する。



写真 着色不足の果房

2 技術のポイント

- (1) 着色始期(満開 50～60 日後頃)に、アブシシン酸液剤を希釈倍率 100 倍でハンドスプレーなどを用い果房全体にムラなく散布することにより収穫期の着色が向上する(図)。
- (2) その他果実品質への影響は認められない(表)。

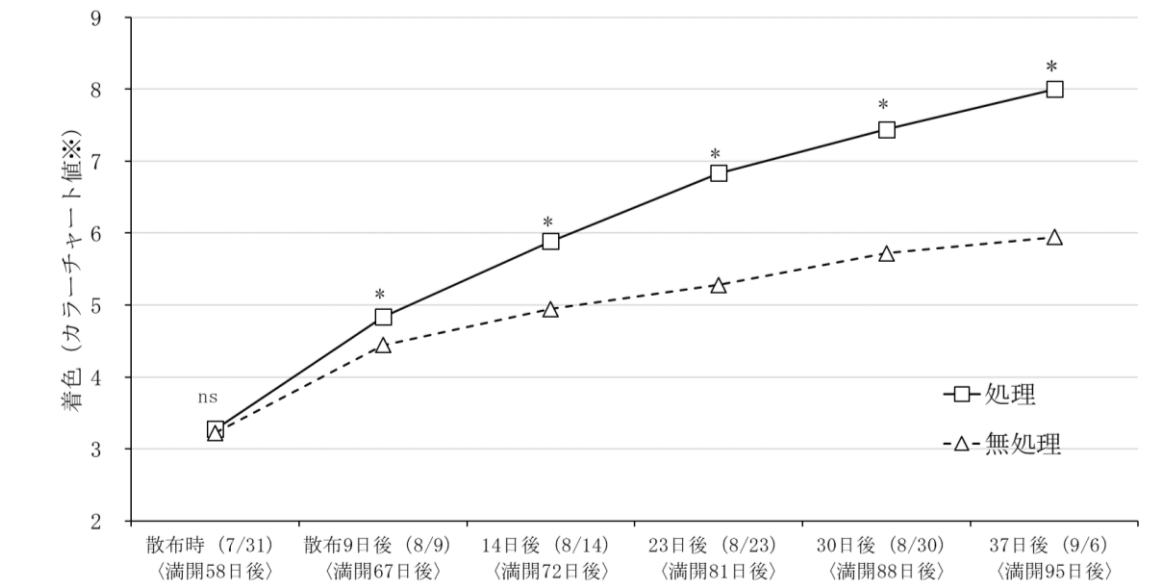


図 アブシシン酸液剤の果房散布が着色の推移に及ぼす影響
Wilcoxon の順位和検定により、ns は有意差なし、*は 5%で有意差あり
※ルビーロマン専用カラーチャート (10 段階) 値

表 アブシシン酸液剤の果房散布が果実品質に及ぼす影響

試験区	果粒重 (g)	糖度 (Brix%)	酸含量 (g/100mL)
処理	30.1	18.0	0.30
無処理	31.0	17.7	0.35

3 成果の活用と残された問題点

本剤の使用登録は「巨峰」「ピオーネ」のみであり、「ルビーロマン」での使用は未登録である(2025 年 3 月時点)。